



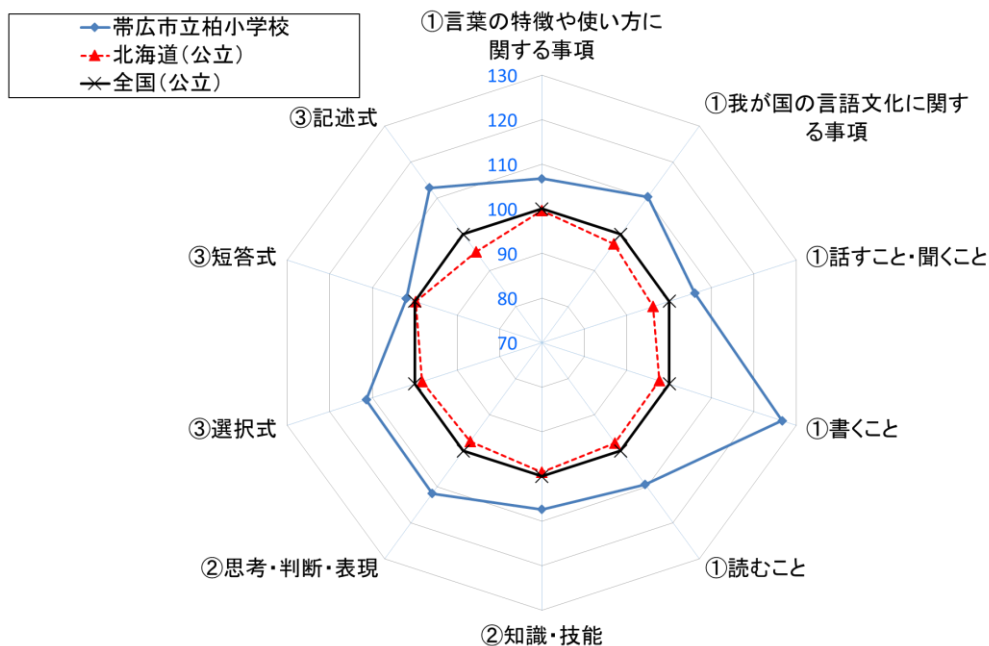
柏小学校 教育の目標
強い心と体でねばり強くやりぬく子ども
確かな知識でよく考える子ども
明るくきまりよい子ども
心豊かで思いやりのある子ども

令和4年度 全国学力・学習状況調査の結果より

『義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる』『そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する』ことを目的として小学校第6学年で毎年行われている「全国学力・学習状況調査」ですが、今年度は、令和4年4月19日(火)に全国一斉に行われました。その結果が届いていますので、本校児童の学力の様子を分析とともにお伝え致します。

尚、数値は全国平均を100とした場合の比率(%)で示しています。

柏っ子の学力について(国語)

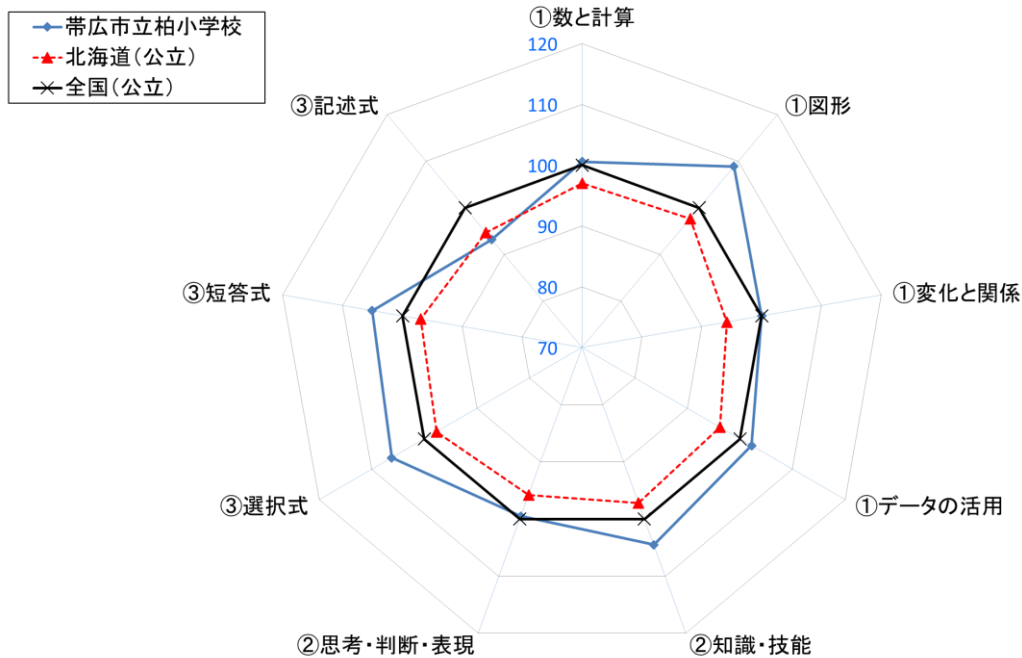


<国語の結果と分析>

国語は全道・全国平均を大きく上回りました。

- 解答の空欄が少なく、難しい問題にも粘り強く向き合っていたことがわかります。
- 話し合いに関わる設問での正答率が高く、日常の話し合い活動でどのようにしたら相手に伝わるかを考えて学習していることがわかります。
- 文字の表記について、読みやすさの条件をよく考えて選択することができていました。
- 記述式での回答は、すべての条件を満たして解答をすることを苦手とする傾向がありました。普段の学習においても、1つだけでなく複数の条件を満たして解答できるようにしていくことが課題です。
- 漢字の間違ひは、似ている漢字と混同してしまっている傾向がありました。

柏っ子の学力について（算数）



<算数の結果と分析>

算数の結果は全道・全国平均を上回りました。

- 基礎的・基本的な学習内容が定着しています。
- 計算問題や図形の問題では、ミスも少なく解答することができていました。
- 買い物の場面で、実際の価格を概数でとらえて大まかに計算し、条件に応じて考察することを苦手とする傾向がありました。
- 日常的な場面で、割合についての理解を問う問題の正答率が低い傾向がみられました。果汁20%の飲み物は量を減らしても割合の20%は変わらないことへの理解が必要でした。

児童質問紙の回答から

<児童質問紙の結果と分析>

- 授業改善により児童の主体性が育まれ、自分で解決しようとする態度が育っています。家庭学習の継続により学習内容の定着が図られています。
- 国語では交流する場面や感想を書く場面を増やすことで力がついてきています。
- 読書の推進により基礎学力の底力となっています。ICTの活用によりスキルが向上しました。
- 学習した知識が日常の生活場面に役立つことを伝えていく必要があります。
- 算数において授業内容がよくわかると答えた児童の割合が低くなりました。授業の振り返りに力を入れていく必要があります。
- 夢や目標をもっていると回答する児童の割合が昨年度と比較して低くなりました。
- 家でICTの利用時間が多くなりすぎる傾向がありました。

※ 理科の結果と今後の対策については23号に掲載します。